

ご自由に
お持ち帰り下さい

Take Free

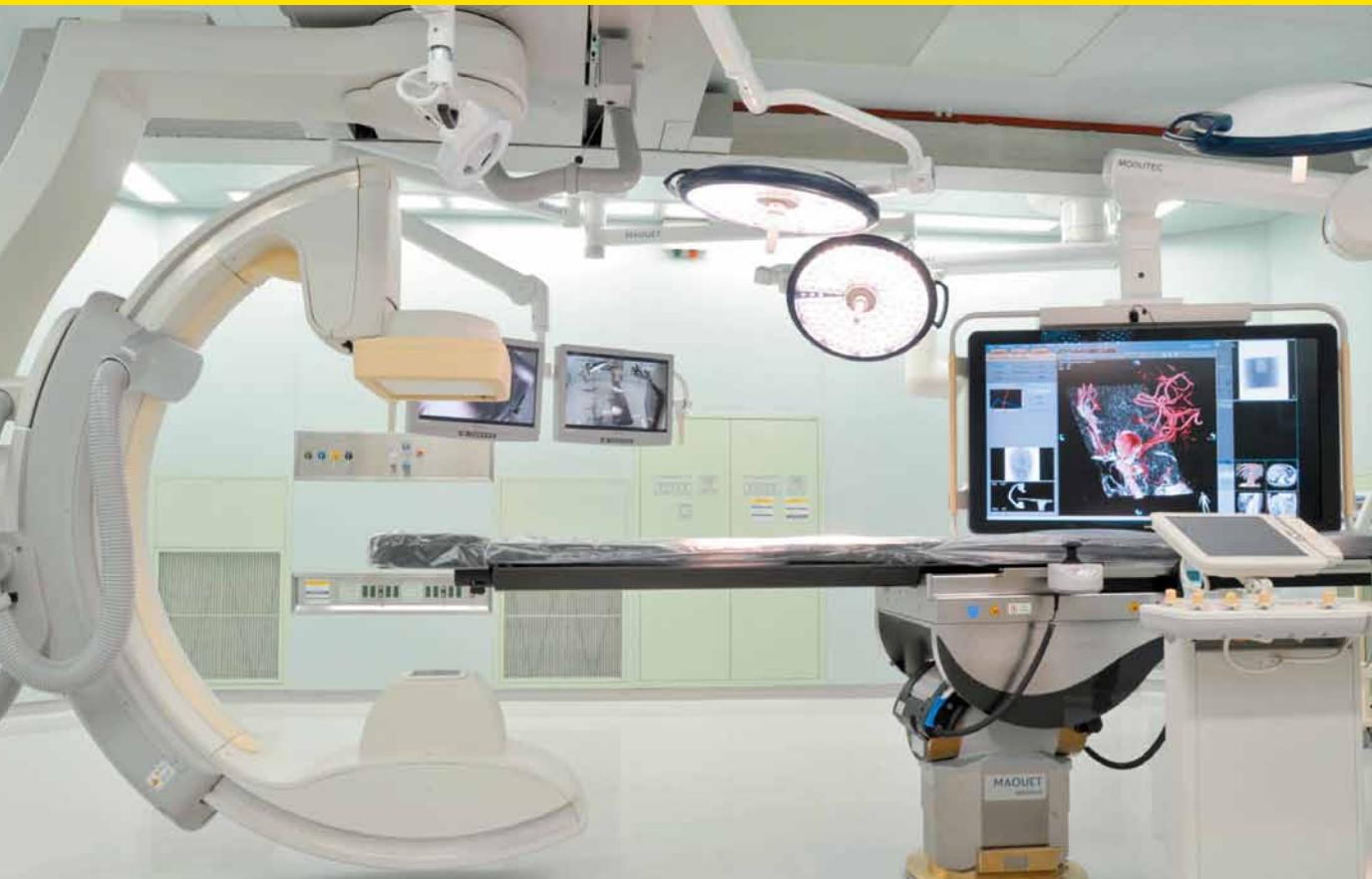


帝京大学医学部附属病院
院内報

特集

ハイブリッド手術室

帝京大学医学部附属病院における
医療技術の最先端



Hibrid Operating Room

チーム医療による2つの機能の融合



printed in japan 本紙掲載の写真・記事の無断転用を禁じます。 Copyright©2013 帝京大学医学部附属病院

◎発行年月
2014年3月
◎発行
帝京大学医学部附属病院 広報企画課
◎編集・制作
アルケファクトリー

目次

連載 医療の歴史 「外科手術の歴史」

特集 ハイブリッド手術室



脳神経外科 上野 俊昭先生

心臓血管外科 今水流 智浩先生

循環器内科 上妻 謙先生

ME部 赤地 吏さん 渡邊聰さん 新 美保子さん

中央放射線部 前島秀幸さん

試行錯誤から生まれた新しいハイブリッド手術室

高度な放射線機器を用いた先進的な手術を

帝京大学医学部附属病院のハイブリッド手術室とは

帝京大学医学部附属病院ハートチーム

連載 チーム医療

輸血検査技師 蟹井はるかさん／作業療法師 木村 遥さん

Topics & News

帝京大学医学部附属病院からのお知らせ

18

16

15

12

11

10

08

06

04

03

02

連載 医療の歴史

【手術の歴史と用語集】

16世紀頃の西洋では、主に医学の主流は内科とされ、理容師が外科のような処置を行っていたと言われています。東洋では14世紀には内科と外科の分化が確認されていますが、あくまで患部箇所の違いに基づくもので、本格的な分化は西洋医学に触発されてからのようにです。

19世紀以降、麻酔による手術が確立され、また戦後人工心肺の開発などで急速に発展しました。

「手術に関する用語集」

・インフォームド・コンセント
「正しい情報を伝えられた上で

の合意」の意。医療行為を受ける際には、現在の病状、治療方針、また予期される合併症等について正確で十分な説明を受け、納得して治療にあたることが重要です。

・QOL

「クオリティ・オブ・ライフ」の略。生活の質。患者への負担が大きい治療を続けることは、肉体的にも精神的にも患者さんが理想とする生活

から離れます。このような状況を「QOLの質が低下する」といいます。これに対し、患者さんが自身の尊厳を保ちつつ、望むような生活を送れることを「QOLを維持する」といいます。

血液成分の不足を自他の血液から補うこと。前もって患者さんの血液を採取し、輸血用血液として使う「自己」血輸血」も行われます。

・輸血

・麻酔
痛みをコントロールし、手術の際に有害となる反射を抑制するためにのみ行われます。体のある部分にのみ効く局所麻酔と意識がなくなる全身麻酔があり、目的により選択されます。

・侵襲手術
侵襲とは、広い意味で体を傷つけることを指します。すなわち低侵襲手術とは、血管内手術や内視鏡手術を代表とする、患者さんの体を大きく傷つけることのない手術のことです。

・QOL

生活の質。患者への負担が大きい治療を続けることは、肉体的にも精神的にも患者さんが理想とする生活



特集

ハイブリッド手術室 Hybrid Operating Room

平成24年12月末。

手術室と血管造影検査室が融合した手術室、

「ハイブリッド手術室」が帝京大学医学部附属病院に完成しました。

この手術室ではどのような治療がおこなわれているのか、

最新鋭の手術をみなさんにご紹介します。



帝京大学医学部附属病院のハイブリッド手術室とは

運用から丸1年を迎えたハイブリッド手術室。脳神経外科の上野俊昭先生は、より高い精度と安全性を持つ治療がハイブリッド手術室で可能になつたと語ります。

帝京大学医学部附属病院に、ハイブリッド手術室を設置することになった理由はどこにあるのでしょうか。

「ハイブリッド」とは、2つの異なるものを合

難しく、きちんととした手術室で行わなくてはなりません。迅速で確実な手術のため、手術室と血管撮影室の機能を併せ持ったハイブリット手術室が必要になってきました」

全身麻酔をかけた状態で
安全な手術が可能に

撮影室』と一緒にした部屋です。体を大きく切らず、カテーテルという管を使って治療する血管内治療という手術があり、これにはエッグ線装置が必要です。通常この装置は中央放射線部の血管撮影室という別の部屋に設置されており、これまで血管内治療はそこで行われてきました。ところが血管内治療と併用して、頭を切って行う開頭手術が必要な場合があり、血管撮影室内での開頭手術は

「ハイブリッド手術室ができたことで脳神経外科にとつてよかつたことの一つとして、全身麻酔をかけた状態での血管撮影や血管内治療が可能になつたということがあげられます。麻酔科医が手術室でない場所に行き、仕事をす

動脈瘤は数ミリほどの大きさしかなく、そこ



上野俊昭先生
Ueno Toshiaki

平成元年3月東京大学医学部医学科卒業後、東京大学医学部附属病院・東京警察病院で脳神経外科研修を行う。カリフォルニア大学サンディエゴ校メティカルセンター留学後、平成16年9月より帝京大学医学部脳神経外科講師、平成20年4月より同准教授。現在にいたる。脳神経外科専門医、脳血管内治療専門医、医学博士。





を遠隔的に治療しなければいけない血管内手術はかなり細かい作業が必要となります。全身性が高まります」

比較的限られたマンパワーの中でも手術の安全性が高まります」

最先端の治療を可能にしたハイブリッド手術室。脳神経外科ではどのような治療が行われているのでしょうか。

「くも膜下出血の原因になる脳動脈瘤を、血管の中からプラチナコイルで固めるコイル塞栓術という治療を行っています。また血管が細くなる狭窄病変は脳梗塞の原因になりますので、カテーテルで風船を使って拡げながらステント（金属性の筒状の網）を置いて血液の流れを良くします。あとは出血の原因となる動脈瘤奇形という血管の奇形に対し、液体の物質をカテーテルで注入して詰めるといった治療を行っています」

ハイブリッド手術室 最大のメリットは安心感

「カテーテル手術の際、万が一トラブルが起つても即座に直達手術（体を切って行う手術）にその場で切り替えることが可能です。安全性が高まることで、従来は難しいと思われていた治療にもトライできるようになりました。また様々な科が使う部屋ですので、手術台や透視装置を自由に移動できるよう設計しています。どのよう置いても手術ができるよう、特殊なオプションを採用し、手術台の周り 360 度どこにでも動かせる X 線透視装置を設置しました」

患者さんを良くしたい、お役に立ちたい、そんな気持ちで治療を行っています。

「ハイブリッド手術室の導入により、当院ではさらに安全かつ難しい手術ができるようになりましたので、安心してお任せください。また

スタッフに伝えたいことですが、我々は全国的にも高いレベルの治療を行っています。大変なこともありますですが、ハイブリッド手術室の利点を存分に利用し、患者さんのお役に立てるよう今後もがんばって参りましょう」

より安全に治療に取り組んでいきたいと語ってくれた上野先生。ハイブリッド手術室が、その希望を着実にかたちにしています。

患者さんと密接に話し合っていきます。

ハイブリッド手術室の必要性を訴え、

実現に向けて動いた心臓血管外科の今水流智浩先生。手術室を最大限活用していくことをを目指しています。

3年前に帝京大学医学部附属病院に入職した今水流先生。よりよい手術環境と安全性向上には必須であるハイブリッド手術室

をつくってほしいと、最初から要望を出していたことがあります。

ハイブリッド手術室の立ち上げが 最初の使命

「カテーテル室を改装してハイブリッド手術室にしている病院もありますが、厳密にはきちんととした手術室でないと清潔度は保たれません。最大のメリットの1つはこの清潔度。2つめは全身管理をする上で重要な麻酔科医が常駐していること。3つめは手術室には様々な状態に対応出来る機器が全て揃っているので、どんなことにも対応できること。この3点があるからこそ、患者さんには最大の安全性が提供できるということを訴えました」

「一般的にハイブリッド手術室を必要とする科はまず心臓血管外科だと思いますが、調べてみると実は脳神経外科、救命救急科、産婦人科にもニーズがありました。そのため心臓血管外科が中心というよりも、他科のみなさんと一緒にになって方向付けしました。将来的には救命救急科も産婦人科も使うことができる可能性を持った手術室です」

「他の病院の方が見学に来られた際、よく質問されるることは『どのようにすれば使う人の使い勝手を重視しました』。

全てにとて使いやすいのか」ということです。



今水流智浩先生
Imazuru Tomohiro

1995年 筑波大学医学群卒業 筑波大学附属病院レジデント、東京厚生年金病院外科、筑波大学循環器外科助手、桐生厚生総合病院診療部長、筑波メディカルセンター病院主任医長を経て2011年より帝京大学医学部心臓血管外科学講座助手、2012年より現職および医局長。医学博士。
外科専門医、心臓血管外科専門医、胸部・腹部大動脈ステントグラフト実施医・指導医、血管内治療認定医。治療に関する些細なことでも、ご相談ください!



ハイブリッド手術室とは、透視装置と手術台、麻酔機が基本となります。その他にも様々な機材が様々なバリエーションであります。

脳神経外科、循環器内科、救命救急科、麻酔科の各先生方、またM E部の意見も踏まえ、このスペースをどう使えばいいのか、どの科がどのようなものを希望しているのかをヒアリングした上で、最大公約数的に考えました』

手術室の使い勝手のよさは、安全性の高さとイコールになります。

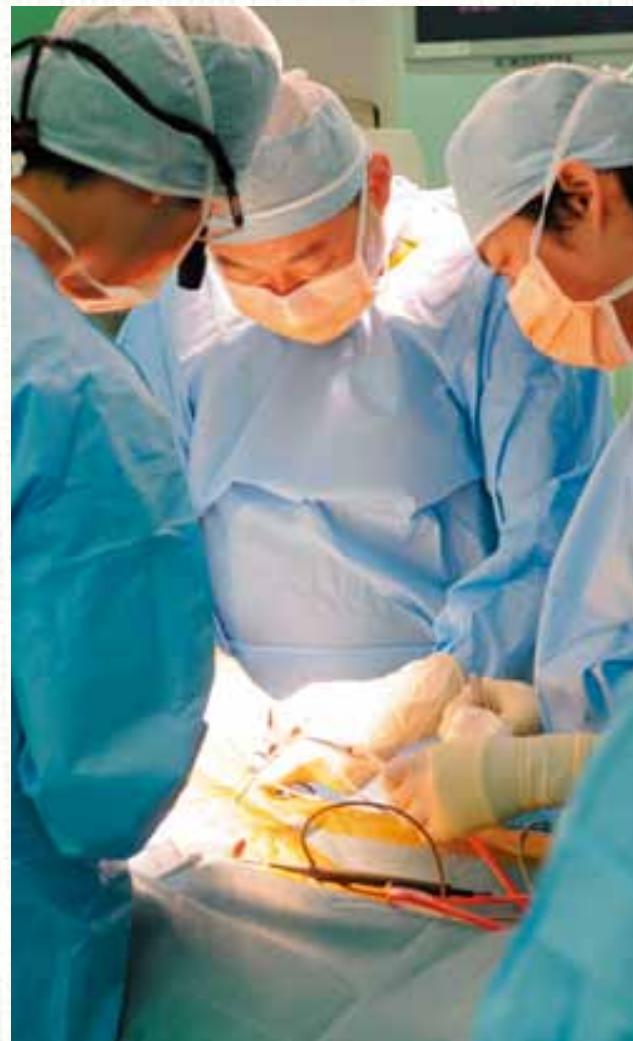
「例えば手術中、急に人工心肺を使う必要が出てくるケースがあります。その場合は即座に室内環境を変えられ、かつ麻酔科の先生やその他のスタッフの邪魔にならない配置でないといけません。スマーズな手術を行うため、みんなで検討して設計しました」

私たちの仕事が全うできたことになると思うので、より治療精度の高い、安全性の高い治療をしていきたいと思っています」

ハイブリッド手術室において、心臓血管外科では様々な手術を行っています。

今後の目標はこの手術室を
最大限活用すること

「ひとつの病気に対して様々な治療法があり、私たちは多くの治療法を呈示できる環境にあります。患者さんとの密接な話し合いをした上で、最善の治療を施し、ご自宅をお返ししていきたいと思っています。患者さんがご自宅で元気に過ごせるようになる、それで



「元気にするため、これからも力を合わせていきたいと語ってくれました。」

手術+術中P C Iといった治療を循環器内科と協調して行ったり、末梢血管手術の術中造影も行っています。私たちのやっていることは全国から見ても非常に誇れる高度な医療ですので、スタッフのみなさんは循環器チームとしての自負と自信を持つて治療に取り組んでほしいです。脳神経外科も循環器内科も含めてですが、全員で行うチーム医療が大切です。みんなが一丸となつて同じ方向を向き、患者さんをよくするという最大の目標をみんなで実現していきたいと思っています」

患者さんを元気にするため、これからも力を合わせていきたいと語ってくれました。

安全・迅速な手術のためには コミュニケーションを重視しています。

科の垣根を越えた情報共有が重要だという

循環器内科の上妻謙先生。

患者さんの負担を抑えた治療を心がけています。

心臓血管領域の循環器疾患を専門とする

循環器内科。ハイブリッド手術室においては、

主に不整脈や心不全の治療を行っています。

「ハイブリッド手術室では放射線の透視や造影を使いながら清潔度が高い手術ができるの

で、不整脈や心不全の治療のためのペースメー

カーを入れたり、埋め込み型の除細動器を入れたりする治療を行っています。運用か

ら1年で、ペースメーカーの埋め込みや心不全の治療、埋め込み型除細動器を入れる手術

は100件近くの実績があり、またこれから始まるのが弁膜症や心臓の構造的なもの

の治療です。実際にバルーンを使用する大動脈弁形成術はすでに数例行っていて、本年1

月より人工弁の埋め込み手術も始めていま

す。患者さんの負担としては比較的軽い手術

ですが、元々の危険度が高い患者さんにとっては非常にリスクが高い治療といえるのでそれをスマーズに行えるよう、細心の注意を払いながら進めていかなければと思っています」

この病院ならではの良さは
強い横の連携

「規模の大きな大学病院としては、横の連携が非常によく取れていると思います。縦割り

の体制ではなく、例えば外科と内科、麻酔科

など、それぞれが非常に風通しよくやり取りをしています。朝には循環器センター病棟でカンファレンス(会議)を行っているのですが、そこで心臓血管外科とコミュニケーションを取り、

その日の情報を共有してスタートするという

上妻謙先生
Kozuma Ken

1991年3月東北大医学部卒業
1991年5月より三井記念病院入職
1999年4月よりエラスムス大学トラックスセンター留学
2001年4月より帝京大学医学部附属病院内科助手
(循環器科)
2006年4月より同医学部内科講師(循環器内科)
2008年4月より同医学部内科准教授(循環器内科)
2013年10月より同医学部内科教授(循環器内科)

日本内科学会総合内科専門医
日本循環器学会認定循環器専門医
日本心血管インターベンション治療学会専門医
Erasmus大学PhD





体制を取つています。心疾患のハイブリッド手術は心臓外科と循環器内科が協力して行う治療なので、常にコミュニケーションを取ることが重要だと思っています。また規模の大きい病院ならではのメリットになりますが、患者さんの症例数が多いことも強みです。高度な治療を必要とする患者さんが集まるところで医師や看護師側の経験の蓄積も多くなっていますので、より適切な治療を患者さんに施すことが可能になっていると思います」

循環器内科、心臓血管外科、麻酔科という医師だけではなく、様々な役割のスタッフが関わって一件の手術が行われます。

「医療機器の操作、保守、管理をするME部、超音波の専門家、看護師、放射線技師と、かなり多くの職種の連携がうまくいかないと出来ない治療です。そのチーム医療をいかにうまく行つていけるかというシステムづくり、体制づくりも大切な課題となります。これまで以上に連携が非常に重要な要素になります。スタッフのみなさんと協力して、高度な治療をやっていきたいと思っています」

ペースメーカーなど人工物を体内に入れる手術を行う際には、清潔度が重要なポイントになってしまいます。

「空気中の細菌に触れたりしないよう最大限の注意が必要になりますので、そういう観点からもハイブリッド手術室は最適な場所と言えます。医師側だけではなく患者さんにとっても、清潔度イコール安心感に繋がります」

患者さんの負担を抑えた手術を積極的に取り入れています。

「心臓の治療に限りませんが、手術の際に患者さんの体をなるべく切らないようにして行うという方向に進んでいます。肉体的な部分はもちろん、精神的な部分でも患者さんの負担は少なくなりますし、術後の入院期間も短くて済み、日常生活への復帰も早く行えます。かつての外科の手術は、傷が非常に大きくなる大規模なものでした。内科的もしくは局所的な治療を加えることで、なるべく患者さんの負担を抑えられるようにと目指したもののがハイブリッド手術です。安全に運用していくたいと医師はじめスタッフ一同考えております」

横の連携を強みにして、今後も患者さんの負担が少なくなる治療を考え、実現していきました」と力強く語ってくれました。



試行錯誤から生まれた新しい ハイブリッド手術室

【ME部】赤地 吏さん

渡邊 聰さん
新 美保子さん

多いです」

新「ハイブリッド室は、手術室としての機能と血管撮影室の機能を兼ね備えた手術室です。通常の手術室にない透視装置などが設置されているので、1つの診療科の手術のことだけを考えて配置してしまって、透視

装置を移動させる際にスタッフや様々な機器に接触してしまいます。それぞれの仕事の邪魔をしないよう、動線も考え配置しなければいけません。試行錯誤の末、運用から1年で形ができるときました」



新 美保子さん
Atarashi Mihoko

1998年3月
日本工学院専門学校 卒業
1998年4月
東京大学医学部附属病院 入職
2012年2月
南京大学医学部附属病院 入職



渡邊 聰さん
Watanabe Satoshi

2007年3月
北里大学病院医療衛生学部
医療工学科臨床工学専攻 卒業
2007年4月
帝京大学医学部附属病院ME部 入職
資格: 第2種ME技術者／
体外循環技術認定士



赤地 吏さん
Akachi Tsukasa

1992年3月
東京電子専門学校 卒業
1992年4月
帝京大学医学部附属病院
ME部 入職
資格: 透析技術認定士／
体外循環技術認定士

赤地「手術室内でのMEの役割は主に、手術室内の機器の保守管理業務、心臓血管外科手術での体外循環業務、ハイブリッド室で行われている循環器内科のペースメーカーなどディバイスのインプラント術やPTAV（経皮的大動脈弁バルーン拡張術）の補助業務です」

新「ハイブリッド室は平成25年1月から運用され、1年で280件ほど の手術が行われました。今後は循環器内科と心臓血管外科が大動脈弁に対して行うTAVI（経カテーテル大動脈弁置換術）という新しい治療のお手伝いをしていきます」

ハイブリッド手術室には、構想の段階から関わりました。

渡邊「より効率の良い手術を行うため、電源の配置や、ガス配管の配置などを考えました」

赤地「頭の手術、胸の手術など手術毎にベッドや機器の位置は変わります。その点で気を遣うことも

2年目に入ったハイブリッド手術。今後の目標をうかがいました。新「せっかく設置されたハイブリッド手術室ですので、今後はこの手術室を使用する利点を私たちなりに考え、しつかり示していくたいと思います」渡邊「ハイブリッド手術室がてきてから、TAVIなど手術の幅が広がっています。新しい手術にも対応できるよう、今後も勉強して参ります」赤地「ハイブリッド手術は、複数の診療科の先生と合同でひとつの手術をなし遂げなければいけません。丁寧にコミュニケーションをとりながら仕事を進めたいと思います」

高度な放射線機器を用いた 先進的な手術を

「中央放射線部」前島秀幸さん



放射線を用いた機器を使って画像検査を行っている中央放射線部。ハイブリッド手術室専属の放射線技師である前島さんは、放射線を出す機械の操作や管理などを行っています。

「通常の手術室しかなかった頃は中央放射線部の様々なスタッフが日替わりで作業を行っていましたが、ハイブリッド手術室ができるて新しい放射線の機械が導入されましたので、専属の担当が必要となり任命されました。以前は2次元でしか見ることのできなかつた体内の状態や患部の様子が、3次元で立体的に確認できるようになるなど、技術の進歩は目覚ましいものがあります。

高度な機械を正確に用いて、先進的な手術がうまく行われるよう

努めています。手術室にいる医師やスタッフともいつも顔を合わせるようになつたので、以前に比べてコミュニケーションを取りやすくなりました」

最も気を付けていることは、安全面にあります。

「画像を撮影する際には大きな機械が回転しますので、患者さんの点滴の管などをひつかけて事故に

ならないように常に気を遣っています。その他にも手術室内には麻酔機などの機械やそれを担当するスタッフが多くおりますので、注意して進めています」

チーム医療が推進されている帝京大学医学部附属病院。手術も他の科と協力しながら進めていきます。

「ハイブリッド手術室には、看護師さんはじめ多くのスタッフが入れ替わり立ち替わり来ますが、その中で一番長い時間いるのはおそらく私だと思います。ですので、ものの置き場所やちょっとしたセッティングを質問されることもあり、手術の手順を踏ました上で私にわかることであれば『こうした方がいいですよ』というおすすめは出来るようになります」

17年間帝京大学医学部附属病院に勤める前島さん。今後の目標は、より高度なチーム医療の推進です。

「これからも新しい手術が始まろうとしています。私は機械の管理を中心に行うことでお役に立てるよう、そしてスタッフのみなさんと協力してチーム医療を実現していきたいと思っています。また放射線を出す機械を扱っていますので、放射線防護に関しても安全性を高めた運用をしていきたいです。ハイブリッド手術室の入室には防護服を着ることが必須で、スタッフには機械との距離の取り方や線量計の携帯など細かいことをいろいろ言いますが、患者さんはもちろんスタッフの体の安全性に配慮しながらやつていただきたいと思います。手術というのは一生に何度もないことで、患者さんは不安を感じられるかもしれません、安全な手術の実現のために全員が細心の注意を払っておりますので、安心して来ていただきたいと思っております」



前島秀幸さん
Maejima Hideyuki

診療放射線技師

1997年3月

帝京大学附属放射線学校卒業

1997年4月

帝京大学医学部附属病院入職

担当 手術室・放射線情報室

関連資格 医療情報技師

帝京放友会(同窓会)会長



手術の現場レポート

安心・安全に最先端の治療を可能にしたハイブリッド手術室。実際に行われた手術の様子を紹介します。

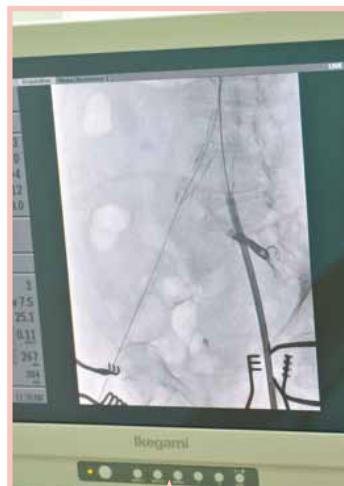


手術室

天井に設置された
レールを通って、
Cアームが室内を
自由に移動します。



他病院のハイブリッド手術室に比べ
非常に広い敷地を有し、
手術によってベッドの向きや位置、
モニターの位置も自在に変えられるなど
様々な手術に対応することができるよう
に設計されています。
アジアで最も早く導入されたCアームをはじめ、
最新型機械が揃います。



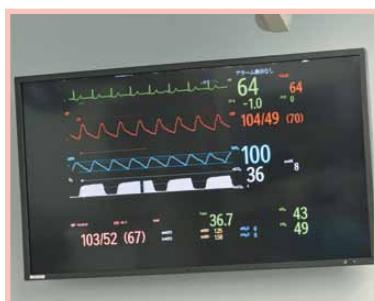
体内的画像を見ながらゆっくりと
カテーテルを進めていきます。
拡大しても画像が荒れることのない
特別な8Kモニターです。



麻酔科医が常に患者さんの
状況を把握し、安全な手術が
行われるよう見守っています。



手術時間と麻酔時間は、
見やすいよう
大きく表示されています。



患者さんのバイタルサイン
(血圧や脈拍等)を常にチェックしながら、
注意深く手術を進めます。



薬剤は適切に温度管理され、
指示があればすぐに
使用できるようになっています。

脳動脈瘤の手術

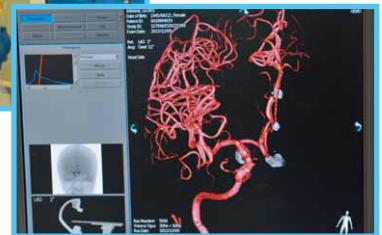
両足の付け根を2~3センチ切り、カテーテルを通してプラチナコイルを脳動脈瘤に詰めていく、脳動脈瘤塞栓術という手術。脳神経外科においては最も件数の多い手術です。



腹部動脈瘤の手術



腹部の動脈瘤の、ステントグラフト手術。カテーテルからステント（金属の網）を貼った人工血管を動脈瘤の内側まで挿入していきます。



あらかじめ撮影したCT画像をチェックできます。
以前は2Dでしか見られなかった血管の様子や患部の位置を3Dで見ることができ、手技の正確性が高まりました。



ワークステーション

手術室内に設置されたカメラを通し、ワークステーションからも手術の全体風景を見ることができます。



放射線技師がいる
ワークステーション。
マイクを通して医師の指示を
聞くことができ、
迅速に動くことができます。



医師の他にも
多種多様な職種のスタッフが
力を合わせ、
ひとつの手術が行われています。



手術が無事終りました。お互い笑顔で「お疲れ様」とねぎらいます。
これからもみんなで力を合わせ、患者さんの治療に当たっていきます!

取材を終えて

ハイブリッド手術室の導入で、より高度な手術が可能になった帝京大学医学部附属病院。スタッフ一人ひとりがそれぞれの役割を果たし、一つのチームとして働く姿が印象的でした。最新の設備とこのチーム力があれば、患者さんも安心して手術を受けられると感じました。



帝京ハートチームは、 循環器疾患の患者さんの治療のため 一丸となつてチーム医療を行います。



心臓血管外科の今水流智浩先生と渡邊雄介先生が提唱した、「帝京ハートチーム」。今年から本格的に始動します。「帝京大学医学部附属病院は地域がん診療連携拠点病院の指定を受けており、がん治療は当院の大きな柱といえます。また年間1200例以上の重症患者の受け入れを行っている救急医療も柱です。もうひとつ、当院が柱とするのは循環器治療があげられます。TAVI（経カテーテル大動脈弁置換手術）を申請して認定された医療施設は、全国に20施設ほどしかありません。循環器を患う患者さんの増加や治療の高度化もあり、心臓血管外科だけが対応しても完璧な体制とはいえない。そこで、ひとりの循環器の患者

さんに最適な治療を施して元気になつていただくために、ハートチームという概念をつくりました。心臓外科医、循環器内科医をはじめ、リハビリテーション部、看護師、コーディネーター、全部を含めてチーム医療ですので、全体で一丸となつて患者さんを治していきたいと思っています。

既存の大学病院ではなかなか難しかつた試みかもしませんが、各科の垣根を取り払って、患者さん本位でひとつ治療をなし遂げるのが『帝京ハートチーム』です。院内のスタッフひとりひとりがチーム員ですので、みんなで良くしていきたいと思っています」

今後の『帝京ハートチーム』の活躍に期待しましょう。

大切な血液を正確に輸血します

輸血検査技師 蟹井はるかさん

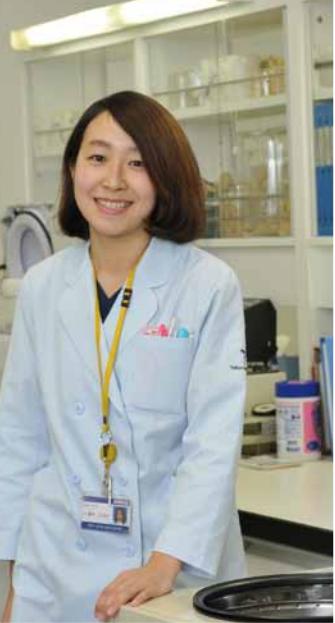
臨床検査技師の蟹井はるかさんは、輸血検査や血液製剤の保管管理を行つてゐる輸血部に在籍しています。

「輸血用血液製剤の保管・管理や、患者さん自身の血液を手術などで使う自己血輸血の採血とその管理、あと造血幹細胞の移植のために細胞採取をするのですが、その細胞の管理や血液細胞の調整や加工も行つています」
血液を多く使うのは救命救急センターと手術室。密な話し合いが欠かせません。

「輸血に使用される血液は、元は献血者からいただいた大切なものです。有効に使つてもらうため、看護師はじめ医療従事者を対象に、血液製剤それぞれの温度管理や有効期間についての勉強会を行つています。あと移植された患者さんは血液型が変わる場合があり、輸血が複雑になつてきます。その理解を深めていたくための勉強会も院内で行つています」

輸血は絶対にミスを犯せない仕事です。

「常に緊張感を持つて仕事



に取り組み、日中は数名でのチエック体制をとつていますが、夜間は一人なので、救命救急センター等で大量に輸血が必要になったときは、

正確・迅速に輸血を供給できるよう

細心の注意を払います。現在都内では血液が足りなくなるという状況は

ますあります。稀な血液型の患者さんが緊急手術になった場合等には、血液センターと連携して全国か

ら血液製剤を集めて検査して、手術室に払い出すことがあります。そういう時はちょっと緊張します」

実際に輸血が実施されるまでには、多くの人の手が関わっています。「輸血とは、献血者から採血された血液が血液センターに集められ、そこで検査されたものが各医療機関の輸血部に運ばれて、輸血部で検査技師が検査します。そして医師のオーダーによつて看護師が患者さんに輸血するという流れで、いろんな人が関わつて輸血が行われています。病棟の看護師や医師との連携を取り、今後も安全な輸血のための努力をしていきたいと思っています」

MY HOBBY



友人のすすめで、フルマラソンを人生に一度くらい走つてみようとその準備をしています。休みの日にはランニングで走っています。倍率は高いけど東京マラソンに出られたらいいですね。「人生観が変わった」と聞きましたので、楽しみです。

蟹井はるかさん
Kanii Haruka

2007年3月 新潟大学医学部保健学科卒業
4月 帝京大学医学部附属病院入職

2013年4月 認定輸血検査技師資格取得



社会復帰の最初の一歩をサポート

作業療法士 木村遥さん

議)に参加し、患者さんの退院に向けてみんなで目標を共有するようにしていきます

もう一つリハビリテーションに不可欠なのは、患者さん側のやる気。

病気やけがになつて入院した方々に対しても、「一日でも早く自宅や地域へ復帰していただくために、サポートする仕事がリハビリテーション」。木

村遥さんは作業療法士です。
「リハビリテーションの専門職として作業療法士、理学療法士、言語聴覚士があります。作業療法士は文字通り作業を用いて患者さんの社会復帰をサポートします。具体的には食事動作、更衣動作、整容動作、排泄動作、入浴動作、家事動作、職場復帰支援等多岐に渡ります。また、作業療法士は手の骨折やけがをした方にも専門的にアプローチします」

リハビリテーションによって患者さんがよくなつていくのを目の前で見られるのは、一番の喜びだそう。
「最初はベッドから起きられなかつた方が、歩いて家に帰ることができ、社会に戻つていく姿を見られるのは嬉しいです」

リハビリテーションでは、他部門との協力が特に必要となつてきます。

「急性期で、状態が安定していない患者さんが多いため、特にリスク管理には気をつけています。医師には運動負荷量や安静度を確認し、看護師には病棟の生活を聞きます。退院後のことに関しては、ソーシャルワーカーとの連携も必要になつてきます。病棟でのカンファレンス(会

議)に参加し、患者さんに『今日はもうやりたくない』と言わることも。そのような方に、少しでも前向きになつてもらえるように心掛けています。患者さんはお子さんからご高齢の方まで幅広く、ご本人の趣味や興味のあることから引き出すこともあります。ご本人だけではなく、ご家族の方からもお話を聞いて、リハビリテーションの参考にすることも多いです」

目標は、更にコミュニケーションを取つてチーム医療に繋げていくこと。「作業療法士は各部門の接着剤になれる職種だと思うので、十分にコミュニケーションを取つていきたいです。また患者さんがきちんと自宅や地域、社会に復帰できるように、適切なリハビリテーションを行つていただきたいと思っています」

MY HOBBY

旅行が好きで、年に一回は海外に行きたいと思っています。
前回は主人と一緒にバリ島へ行きました。また友人と出掛けることも多く、みんなでワイワイ遊ぶことが楽しみです。今度は北海道に行きたいですね。北海道に行けば、日本の各地方は回つたことになります。



木村 遥さん
Kimura Haruka

2008年3月 帝京平成大学 健康メディカル学部

作業療法学科 卒業

4月 帝京大学医学部附属病院

リハビリテーション部 入職



当院では、ご近所にかかりつけ医をお持ちいただく
『ふたり主治医』制を推進しています。

患者さん1人に「2人の主治医」

ご近所の「かかりつけ医」よりご紹介いただき、

専門的治療を行います。

状態が安定ののちは、「かかりつけ医」で

健康管理していただきます。

受診までの流れ



普段患者さんの健康管理を行っているご近所の「かかりつけ医」や
密接に情報共有を行っている「帝京大学病院医療連携登録医」などと連携し、
役割分担を行うことによって、

「2人の主治医」で継続した医療を提供することを目指しています。

皆さまのご理解とご協力を願っています。

帝京大学医学部附属病院は、

「かかりつけ医」・「帝京大学医療連携登録医」とともに患者さんを見守ります。

当院は高度の医療提供を目的として厚生労働省の承認を受けた「特定機能病院」です。

「救急・急性期医療」「がん医療」「高度の専門医療」を軸とした医療を推進しております。

Topics & News

『ふたり主治医』制について Q&A

Q かかりつけ医とは何ですか？

A 日常の診療や健康管理を行つていただく地域の身近なお医者さんです。国や地方自治体もかかりつけ医を持つことを推進しています。

**Q ふたり主治医制とは
どういったものでしようか？**

A かかりつけ医と特定機能病院（高度の医療提供を目的として厚生労働省の承認を受けた医療機関）である当院と、患者さんの病状に応じた治療を行えるよう役割分担をします。かかりつけ医と当院がともに患者さんを見守つていくということです。

**Q ふたり主治医制における
患者さんのメリットとはなんでしようか？**

A 普段から患者さんを診察しているかかりつけ医の先生は、患者さんのちょっととした変化を見つけることができます。頼りになるかかりつけ医をお持ちいただくことは、病気

の早期発見やメタボリックシンドロームの予防にもつながります。

また、特定機能病院である当院と密接に連携を取つてることから、万が一患者さんの具合が急変した場合は当院へスムーズに紹介してくれます。そして、急性期治療が終了した時点で、患者さんの健康管理はかかりつけ医にもどつて行います。

すなわち、かかりつけ医と当院の主治医で、患者さんを見守ることになります。一人の医師には目が二つしかないですが、二人ですと目が四つになりますので、ふたり主治医制のメリットは数多くあります。

**Q かかりつけ医がない場合は
どうしたらよいでしょうか？**

A 当院の主治医にご相談ください。今後、かかりつけ医を探す相談窓口も設置いたします。ふたり主治医制の推進に何卒ご理解いただき、ご協力のほど宜しくお願ひいたし

「ふたり主治医」制で
安心健康生活を
送りましょう。

帝京大学医学部附属病院
病院長 中込忠好





帝京大学医学部附属病院

〒173-8606 東京都板橋区加賀 2-11-1

TEL.03-3964-1211 (代表)

URL <http://www.teikyo-hospital.jp/>

帝京大学病院

院内報についてのお問い合わせ先——
帝京大学医学部附属病院 広報委員会
E-mail:kohoiin@med.teikyo-u.ac.jp